

2009年3月期第3四半期業績概況資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2235

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

第3四半期は増収なるも原材料費の価格転嫁進まず減益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2009年3月期第3四半期連結業績と通期業績見込

単位:金額=億円 (未満切捨て)	3Q		1~3Q		4Q		通 期		
	前年比		前年比		(E)	前年比	(E)	前回(E)比	前年比
売上高	1,275	+23	3,703	+141	1,094	+20	4,798	+ 25	+162
営業利益	46	-20	137	-9	11	-14	149	-21	-24
経常利益	44	-24	131	-14	6	-16	138	-22	-30
当期純利益	25	-17	65	-25	0	-4	66	-11	-30

1. 売上高

注: (E)は今回発表した見込、前回(E)は08年10月28日に発表した見込

①第3四半期(10~12月)は2%の増収、チキンの扱いが伸びた畜産が12%の大幅増収、水産と低温物流も前年比増収に、加工食品は需要の低迷した家庭用調理冷食とアセロラの不振が続く健康価値分野に加え業務用も伸び悩み前年比3%の減収。

②通期は全体では25億円の上方修正。加工食品は業務用を引下げるが、畜産・水産で上積みする。

2. 営業利益

①第3四半期は前年比20億円の減益、加工食品が減収のうえ原材料コスト上昇も吸収しきれず17億円の大幅減益、水産・畜産も急激な円高で損失在庫が発生、拡大回避のため損失処理を優先したため利益は計画線を下回り減益、低温物流は海外の好調が継続2億円の増益に。

②通期は前回予想比21億円下方修正し、加工食品・水産・畜産の悪化を織り込む。

3. 経常利益・当期純利益

①特別損益は固定資産売却で前回予想より第3四半期で4億円、第4四半期で2億円改善。

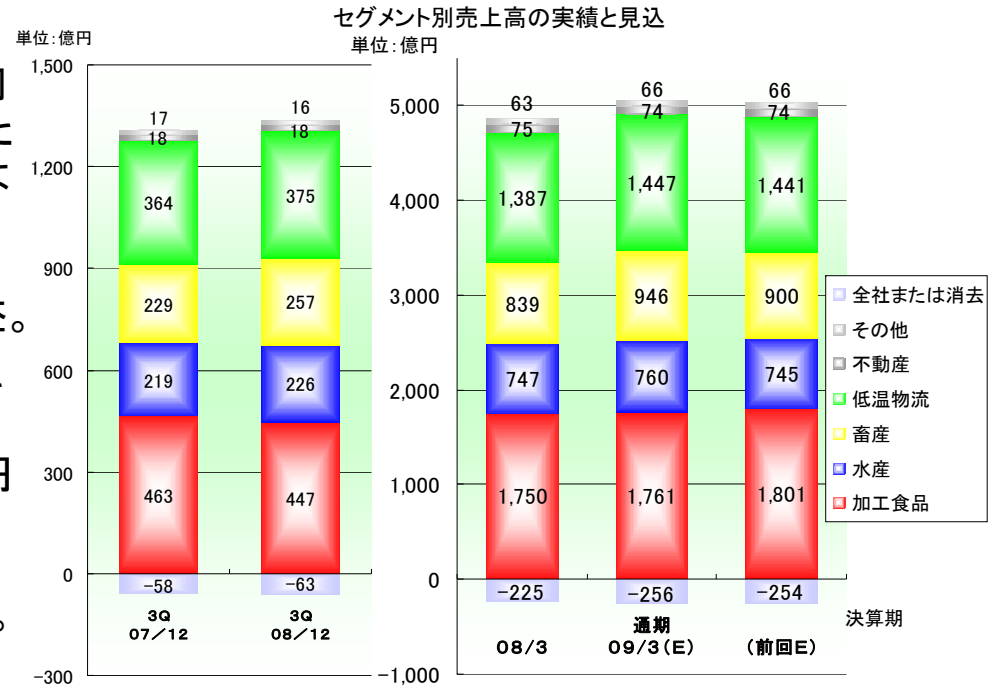
水産・畜産は円高による市況急落の影響を最小限に止める

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高と営業利益(その1)

1.加工食品

- ①売上は前年を3%下回る。引続き中食市場向けは堅調ながら中国チキン再開で遅れがでた業務用調理品は2%増収に止まる。家庭用は10・11月の需要低迷が響き5%減収に。営業利益は売上減に加え値上げの遅れから原材料価格上昇を吸収し切れず17億円の減益。
- ②通期では売上高を40億円下方修正。原材料価格がピークアウトした為一部で値上げが前回予想通りに進まず採算面に影響及ぼす。円高効果に加え原材料価格低下が一部で始まるものの本格的な寄与は次期以降になることから、営業利益予想を14億円下方修正する。



(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

2.水産

- ①売上は加工凍魚での新規取組が寄与し前年比3%の増収となったが、急激な円高によりえびを含め全般的に市況が下落、損失在庫の処理を急いだことから採算が悪化し1億円の黒字に止まる。
- ②不需要期となる第4四半期は一部越年した損失在庫(えび、たこ、鮭鱒等)の一扫を織り込み4億円の営業損失となる、通期の営業黒字化は達成するものの前回予想を4億円下回る5億円の見通し。

3.畜産

- ①売上は鶏肉の伸長により前年比12%の大幅増収となるが、秋以降相場の急落したブラジル産チキンや豪州産牛肉の損失在庫の処理を進めた結果、僅かに営業黒字は確保したが前年比2億円の減益。
- ②損失在庫処理は峠を越えたものの一部は第4四半期に持ち越し2億円の営業赤字に、通期の営業利益は前回予想比6億円下方修正し5億円の見通し。ブラジル産チキンの採算は2月から正常化する。2

低温物流は海外が好調で牽引役に地域保管も増収増益

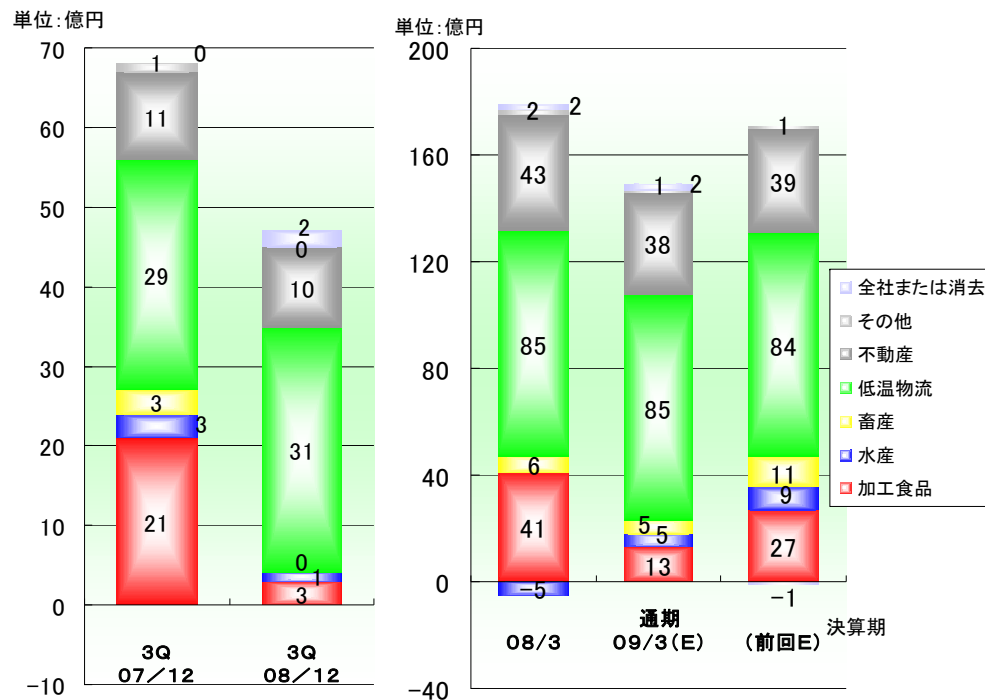
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)

4.低温物流

- ①海外と地域保管が順調に推移し売上は前年比3%増収、営業利益は2億円の増益となった。地域保管は景気後退の影響が入庫・出庫量の減少と総合在庫率の上昇に現れているが採算面での大きな影響は出でならず、前年比増収増益。ネットワークは燃油サーチャージの収受改善が第4四半期以降となり採算の厳しい状況が続いた。12月決算の海外は第3四半期が7~9月、金融危機発生前の事業環境で1億円の増益。
- ②通期は、12月決算の海外がほぼ前回予想の線で着地していること、国内も第4四半期は景気後退の影響を大きく受けることなく稼働を維持できる見通しで、売上は前回比6億円、営業利益は1億円上方修正する。

セグメント別営業利益の実績と見込



5.不動産

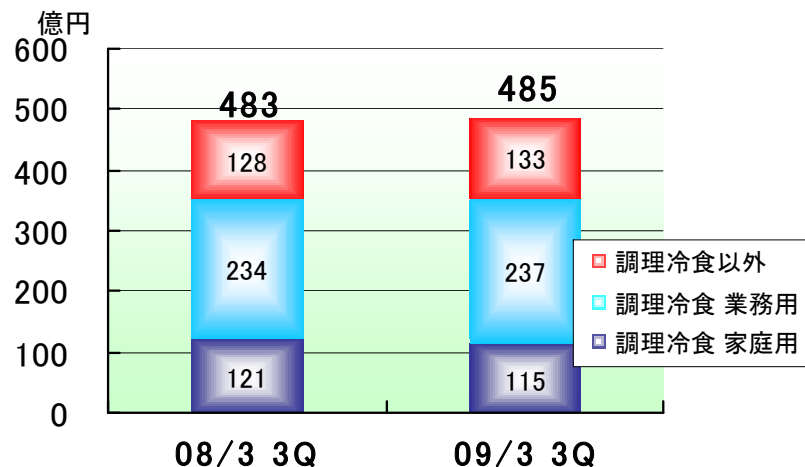
- ①第3四半期は、賃貸事業による収益のみで売上高は前年と変わらないが、営業利益は前年比1億円の減益となった。
- ②通期は、売上は前回予想通り、営業利益は1億円下方修正する。

第3四半期は業務用のペースダウンから微増収に止まる

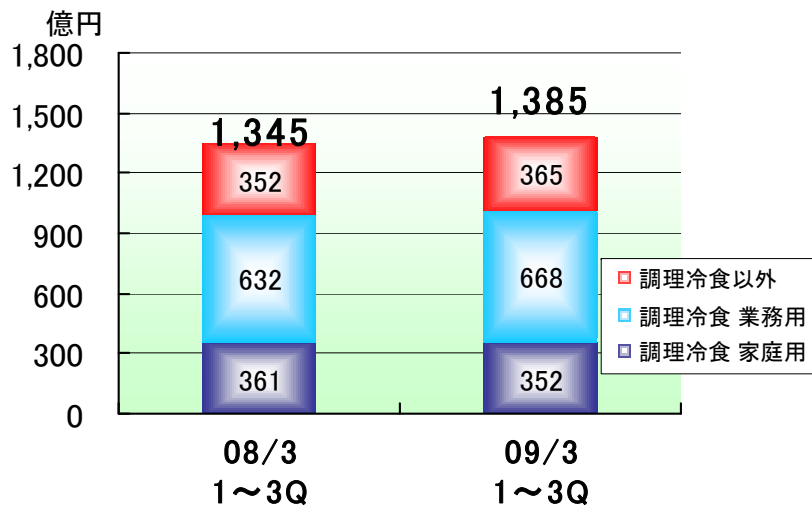
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **N**ニチレイ

第3四半期冷凍食品売上高

冷凍食品売上高の推移



冷凍食品売上高の推移



1. 冷凍食品全般

第3四半期(10~12月)は前年比1%の増収、4~12月累計では3%増収。伸び悩みは家庭用の10・11月の売上減と業務用で再開した中国チキンの販売が第1四半期並みに戻らないことが主な要因。冷凍野菜は第3四半期1%減収、累計では3%増収。

2. 調理冷食

①家庭用: 第3四半期は5%減収、累計で3%減収。餃子事件の影響から脱し第2四半期では前年並みの水準に回復したが10・11月と需要の低迷から前年比ダウン。10月のいんげん殺虫剤検出事件による落ち込みは見られず、販売シェアは引続き前年を上回って推移。パリパリの春巻、えびピラフが好調。

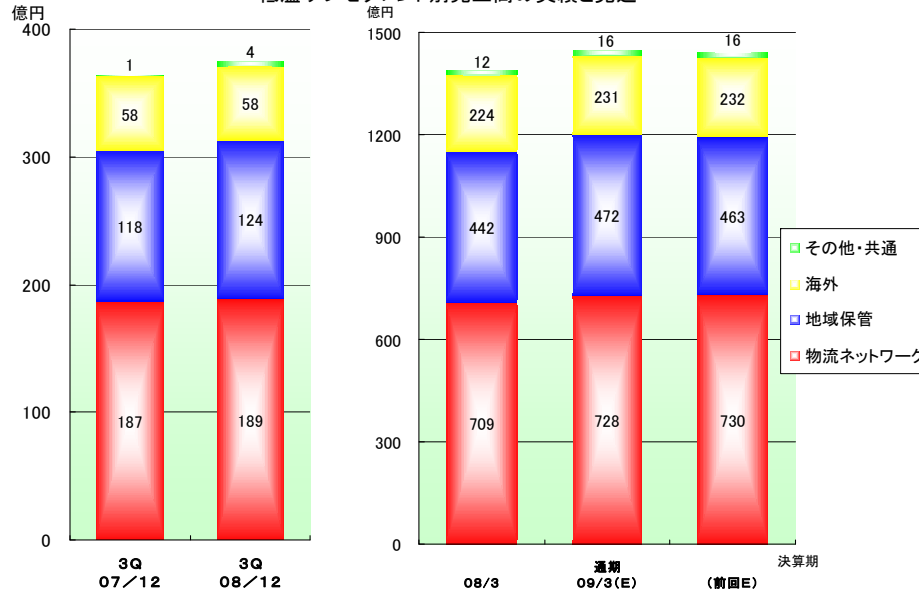
②業務用: 第3四半期は2%の増収、累計で6%増収。11月から中国チキンの販売を再開したが値上げが嫌気されたのに加え素材鶏肉の価格急落と供給過剰が影響した。チキンの売上回復は第4四半期一杯かかる見通し。中食市場向けはコロッケ類を中心に引き続き好調に推移。

海外の好調に加え厳しい環境の地域保管も前年を上回る

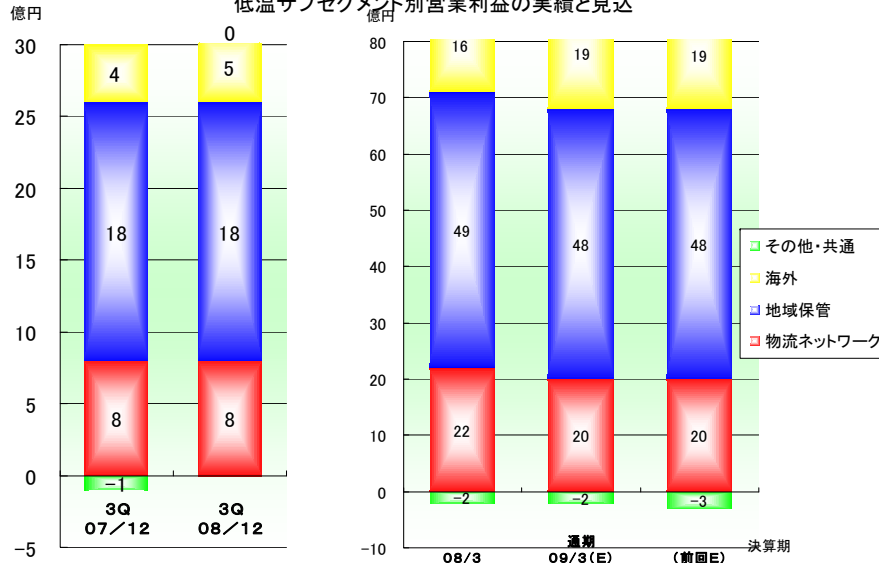
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業のサブセグメント別対前期比増減要因と通期見込

低温サブセグメント別売上高の実績と見込



低温サブセグメント別営業利益の実績と見込



1. 物流ネットワーク

運送会社の買収などで売上高は前年比1%増収となったが、燃油サーチャージの負担が続き営業利益は前年比微減となる。燃油サーチャージ負担は第4四半期から解消し採算は改善方向に。

2. 地域保管

輸入鶏肉をはじめ畜産物・水産物全般に在庫量が多く総合在庫率を押し上げる。一方で冷凍食品の入出庫が落ち込むなど、荷動きの停滞も顕著になり始める。売上は前年比5%増収、営業利益は1億円増益。

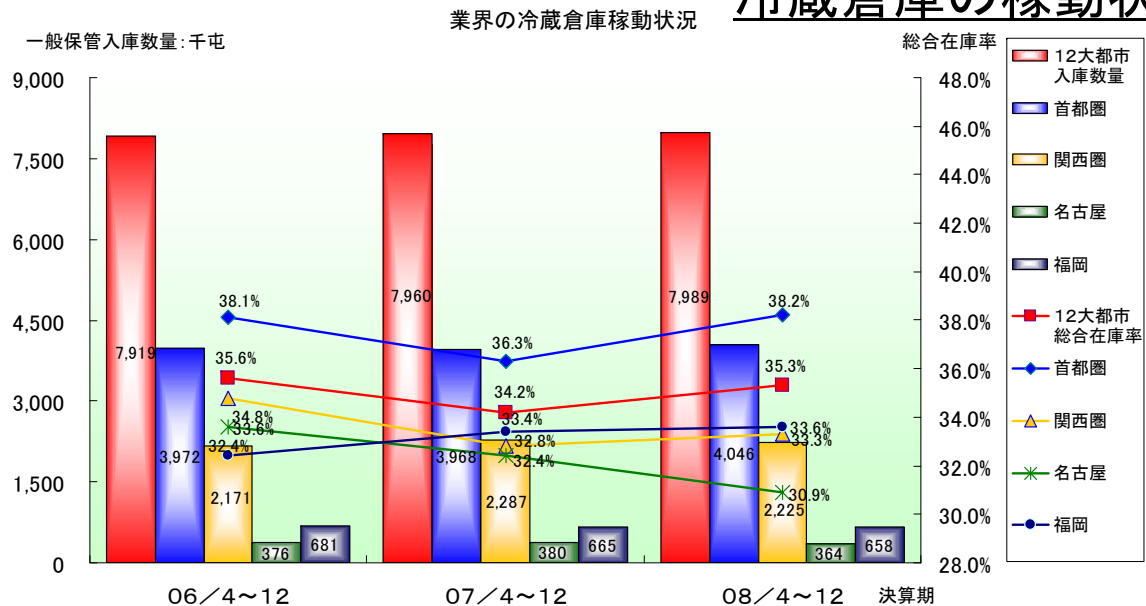
3. 海外

第3四半期(7~9月)は、欧州が引続き一般貨物保管とフォワーディングが好調。ブラジルチキンの搬入量拡大が寄与、在庫率も高めに推移し前年比1%増収、1億円増益。懸念される欧州の景気後退による影響は、12月現在では出ていない。

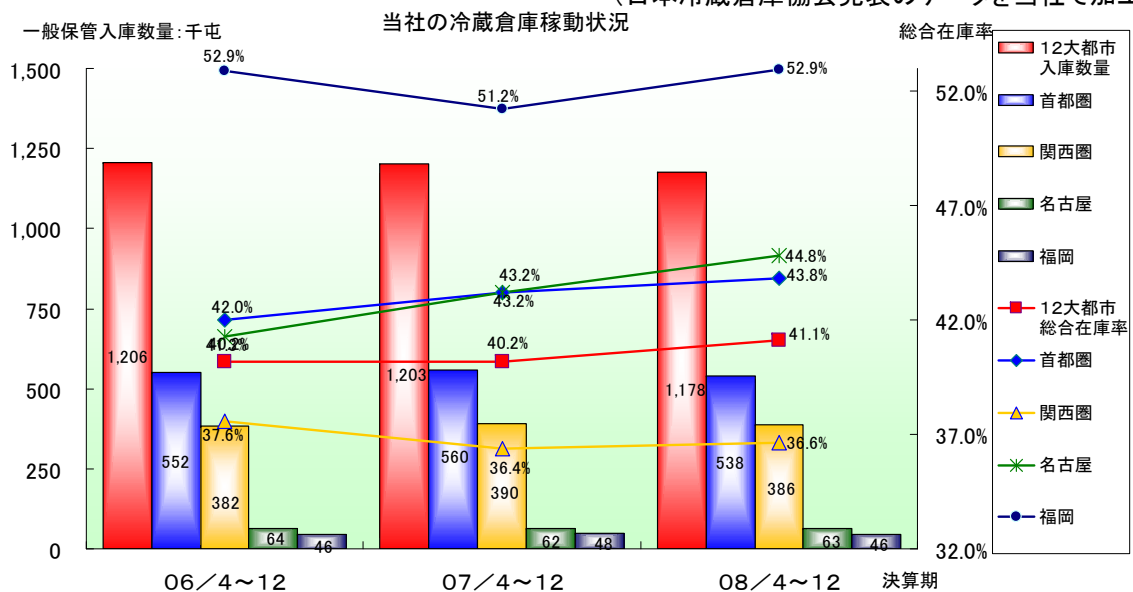
冷蔵庫の稼働は景気後退の影響が徐々に始まる

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。ニチレイ

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1. 業界の状況

首都圏を中心とした入庫量増大と景気後退による出庫量減少の結果、在庫率は前年の水準を上回る結果となった。

2. ニチレイグループの状況

入庫量は前年を下回ったが景気後退の影響で出庫量も減少した結果、在庫率は前年を上回った。

特別損益のマイナス幅が前回予想より5億円改善

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		第3四半期(10~12月)					通 期			
		08/12	07/12	増 減			09/3 今回E	09/3 前回E	08/3	増 減
【営業外収支】 (主要項目)		-2	+1	-3	【営業外収支】 (主要項目)		-11	-10	-4	-6
金融収支	①	-3	-1	-1	金融収支		-12	-12	-6	-5
持分法投資損益		+0	+1	-0	持分法投資損益		+2	+2	+3	-1
【特別損益】 (主要項目)		+1	+2	-1	【特別損益】	③	-25	-30	-4	-20
固定資産売却益	②	+4	+0	+4						
投資有価証券売却益		-	+3	-3						
固定資産除却損		-1	-0	-0						
投資有価証券評価損		-1	+0	-1						

前回Eは10月28日に発表したもの

- ① 支払利息で社債利息が1億円減少するが、リース会計基準適用により5億円増加し前年比マイナスに
- ② 固定資産売却益で冷蔵倉庫跡地の売却益4億円増加
- ③ 年初に計画していた土地売却益13億円は発生しないが、②と第4四半期発生予定の固定資産売却益2億円が追加したことにより前回予想より5億円のプラス

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込・前回見込・前年実績

単位：億円(単位未満四捨五入、一部で端数調整あり)

	第3四半期 (10~12月)		第3四半期累計 (4~12月)		第4四半期 (1~3月)		通期		
	08/12	07/12	08/12	07/12	09/3 '(E)	08/3	09/3 (E)	09/3 (前回E)	08/3
(売上高)									
加工食品	447	463	1,348	1,348	413	402	1,761	1,801	1,750
水産	226	219	621	601	139	146	760	745	747
畜産	257	229	727	632	219	207	946	900	839
低温物流	375	364	1,098	1,053	349	334	1,447	1,441	1,387
不動産	18	18	56	57	18	18	74	74	75
その他	16	17	48	46	18	17	66	66	63
全社または消去	-63	-58	-194	-174	-62	-51	-256	-254	-225
合計	1,276	1,252	3,704	3,563	1,094	1,073	4,798	4,773	4,636
(営業利益)									
加工食品	3	21	13	36	0	5	13	27	41
水産	1	3	8	0	-3	-5	5	9	-5
畜産	0	3	7	6	-2	0	5	11	6
低温物流	31	29	75	72	10	13	85	84	85
不動産	10	11	31	33	7	10	38	39	43
その他	0	1	1	1	0	1	1	1	2
全社または消去	2	0	3	0	-1	2	2	-1	2
合計	47	68	138	148	11	26	149	170	174

注：09/3(E)は今回発表した見込で、前回Eは10月28日に発表した見込。

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニチレイ

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみに全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果
など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。